

NEWSLETTER FROM
TICON GROUP

FORWARD

January-March 2018 | ISSUE 17

フォード1億パーツ投資
TPARKバンプリに
部品配送センターを新設

サプライチェーン革命4.0
(Part 2)

ICO
(イニシャル・コイン・オフリング)

TICONグループの
持続的未來戦略

NO. 1 PROVIDER OF FIRST-CLASS WAREHOUSE IN ASEAN



- International Quality
- Ready to Use
- Strategic Locations

Contact Us: **02-679-6565**



Message from Editor

2017年はTICONグループにとって大きな転機となる1年でした。当社は新たな株主としてFraser's Property Ltd.を迎えたことで財務基盤を強固にするとともに、不動産開発のノウハウを持つパートナーを得ることができたのです。業績面においては計画通りに工場および倉庫を拡張する一方、TPARKバンブリがLEED認証のゴールドレベルを獲得することができ、私たちが目指す成長性と持続性を兼ね備えた建屋開発のリーダーに向けさらに一歩前進しました。また、インドネシアではマカッサルとバンジャルマシで新プロジェクトを開始し、ユニリーバ・インドネシアが顧客第一号となりました。さらにはTICONグループの3不動産投資ファンドをTREITに集約し、タイ国内最大の産業ファンドが誕生しました。ウィラバン・ブーンゲートCEOは、「これらすべてがTICONグループの昨年のサクセス・ストーリーなのです」と語りました。

そして、ソーポン・ラーチャラクサーPresidentは2018年について次のように説明しました。「今年は3カ年事業計画のスタート年となります。私たちは高品質工場・倉庫の開発にとどまらず、工業用不動産開発から多目的不動産開発や技術導入によるプロジェクト開発などに事業領域を拡大することで、事業パートナーや社会とともに成長し、ASEANの不動産開発リーダーを目指していきます」。



ISSUE 17 January-March 2018

CONTENTS

TICON SPOTLIGHT

TICONグループの持続
的未来戦略 6

INVESTOR'S FOCUS

ICO (イニシャル・コイ
ン・オファリング)
10

COFFEE TIME WITH GURUS 4

サプライチェーン革命4.0 (Part 2)

EVENTS NEWS 12

NEW TENANTS 13

OPERATION CAFE 14

ロボット倉庫導入でビジネス拡大

SPECIAL COLUMN 16

フォード1億パーツ投資

TPARKバンブリに部品配送センターを新設

PROPERTY HIGHLIGHT 18

TAKE A BREAK 19

Krua Sator Restaurant,
Sriracha

FORWARD

Consultants

MR. SOPON RACHARAKSA
MS. HATAIKAN DUTTADINTORN

Executive Editor (English)

MR. THANATDECH SIRIVORANAN

Executive Editor (Japanese)

MR. YUTAKA OMOTEHARA

Executive Editor /

Art & Design Director

MR. THANATDECH SIRIVORANAN

Editorial Staff

MR. THANATDECH SIRIVORANAN

TICON TPARK

Published on Behalf of:

TICON GROUP

175 Sathorn City Tower, 13th Floor,
Suite 1308, South Sathorn Road,
Sathorn, Bangkok
10120 Thailand

Tel: +66 (0) 2679 6565

Fax: +66 (0) 2679 6569

Email: logistics@ticon.co.th

www.ticon.co.th

Follow us on

Twitter@TPARK_Live



Article by Sunyawit Sethapokin

Managing Director, Blue & White Logistics Co., Ltd.
President, Thai Transportation and Logistics Association

サプライチェーン 革命 4.0 (Part 2)



小売事業において、規模の大小にかかわらず小売店舗は製造者から商品を仕入れて消費者の近くに並べ、消費者が購入できるようにすることがその役割です。しかし、仲買ビジネスは販売者と消費者がスマホのアプリを通じて直接やり取りすることを可能にしたインターネットの影響を受け、その存在を必要とされなくなっています。

筆者は2〜3カ月前、カメラの小さな部品を求めて小売店を何店舗も回りましたが、販売していないか、過去に販売していても新たに入荷していないため、どの店でも見つけることができませんでした。そこでネットショップで検索した結果、低価格の商品を見つけることができたため、クレジットカード決済で購入しました。しばらくすると商品がどこにあって、何日に届けられるか



“Nowadays, shipping has improved its speed while purchase and order can be made easily via the Internet. Each order is no longer a demand forecast, but a real demand”



を知らせる内容のメールが届き、深センからチャイナポスト(中国郵政)とタイポストを通じて4~5日後には自宅に郵送されてきました。今や、タイ国内の消費者は小さな商品を1個からでも中国の製造業者または販売業者から仲買人や小売店を通すことなく直接購入できる時代なのです。



従来のサプライチェーンにおいては、投資が可能かつ十分な顧客を有している輸入業者が外国の製造業者から商品を大量に仕入れて初めて、消費者は輸入品を購入することができました。また、輸入後は商品を倉庫に保管し、販売業者からの発注や消費者の購入を待つ必要があります。これは輸入業者、販売業者、小売店といった各段階において在庫を抱えることを意味し、すべてがコストとなるのです。さらに、販売においてはどの商品がどれくらい売れるのかといった予測をする必要があります。販売業者は「需要予測」(Demand Forecast)という美しい言葉で呼ばれる予測を行いますが、実際には正確に予測できた試しはなく、ほとんど推測でしかありません。これもまた旧システムにおけるサプライチェーンの隠れたコストなのです。

現在は迅速な配送が可能で、購入や支払いはインターネットで簡単にできる時代となり、毎回の購入は需要予測ではなく実需(Real Demand)であり、商品はどんなに小さいものでも1個から配送が可能となりました。ここには在庫費用も輸入業者・卸業者・小売業者のマージンもありません。コスト増となるのは1回あたりの送料だけで、これもトータルコストでみた場合には従来のサプライチェーンよりも明らかに安くなります。

これこそがサプライチェーン革命であり、影響を受けるのは小売業者のみならず、輸入業者や地域・県単位の販売業者も同様で、仲買人の存在自体がシステムから排除されるのです。そして、ほぼすべての商品がこのシステムのなかで販売される商品に該当するのです。

コンビニ店のほとんどが半食堂状態となって久しく、ディスカウントストアやデパートはネットで商品を販売し、低価格または無料で自宅に配送し始めています。このチャネルの消費者は増加傾向にあり、ディスカウントストアの店舗は近隣のコミュニティに商品を配送するための配送ハブとなってきています。

サプライチェーン革命の影響を受けていることに気づいていない、あるいは気づいていながらも適応できていない人たちが将来どうなるのか、言うまでもありません。このため、筆者は次の言葉で当コラムを閉めたいと思います。

「インターネットが世界を変え、ビジネスが変貌を遂げている。スピードを速めているのは技術であり、モチベーションとなっているのは行動である」

Disclaimer: This article was written by third parties. Such article is owned by their authors for publication on the newsletter. TICON group does not warrant, endorse, guarantee or assume responsibility for any third party articles including their accuracy, or the intellectual property rights in or relating to such article. For more information, please contact directly to the author of this article.



未来への出発点

TICONグループの 持続的未來戦略

グリーンビルディングや環境に配慮したプロジェクトの開発は、単なるイメージ戦略ではなく、利害関係人や社会の利益創出を目的に遂行しなければなりません。今回のForward Magazineでは、グリーンビルディング開発の持続的未來戦略をご紹介します。

TICONグループの建屋開発方針は、事業の成長性と持続性の両立に関する経営陣の決定によりスタートしました。その最初の成果として2014年にDEMCO PLC. (DEMCO)との提携によりTPARKシラチャ、TPARKレムチャバン2、TPARKバンナの建屋屋根に太陽光パネル9,900㎡(発電能力953.36キロワット)を設置し、TICON初の太陽光発電が始まりました。

グリーンビルディングの歩み

2015

TICONは2015年、グリーンビルディングのコンセプトをレンタル工場に導入し、アジア工業団地スワンナプームで初のグリーン工場(3,300㎡)を開発しました。同プロジェクトに環境性能評価システムのLEED (Leadership in Energy and Environmental Design) の標準認証を導入することで省エネを可能にしました。

2016

2016年にはTPARKワンノイ2でグリーン倉庫(25,000㎡)を開発し、LEED認証のシルバーレベルを取得しました。

2017

そして、2017年には化粧品ブランド大手のBuild to Suit型倉庫(20,000㎡)をTPARKバンナに開発し、LEED認証のシルバーレベルを取得。続いて、自動車大手のBuild to Suit型倉庫(26,000㎡)をTPARKバンプリ4に開発、LEED認証のゴールドレベルを取得しました。

LEED以外にも、TARKバンプリ4の倉庫(29,000㎡)が世界銀行グループの国際金融公社(IFC)が開発した建築設計基準のEDGE (Excellence in Design for Greater Efficiencies) の認証を取得しました。



グリーンビルディングの効果

TICON Industrial Connection PLC. のDeputy General Manager、タウィーポン・ブーンゲート氏は、グリーンビルディングの省エネについて次のように語りました。

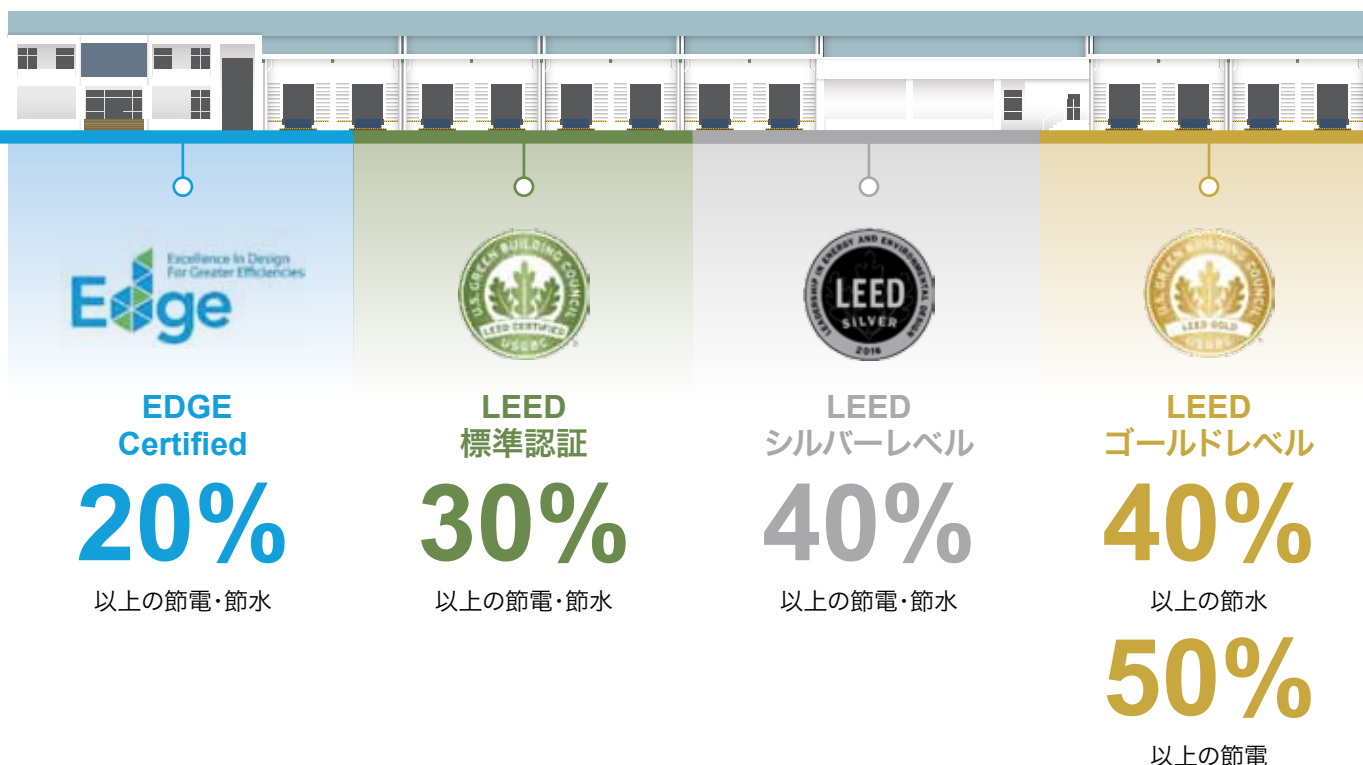
LEED基準をクリアした工場および倉庫は、省エネ対応の最新資材を使用することで認証レベルに応じて20～53%の省エネが可能となります。例えば、屋根に透明な資材を使うことで97%以上の太陽光を取り入れ、屋内作業に適した光量を確保できます。また、発光効率のよいLED照明、太陽光パネル、電力使用量監視システム等の設置



により、アメリカ暖房冷凍空調学会（ASHRAE）の基準に基づいて細かなエネルギー使用評価が可能となります。さらに、通常の工場や倉庫と比べて42%以上、年間

750立法メートルの節水も可能となります。屋内環境についてもASHRAE基準に基づく空気循環システムを採用し、省エネに加えて作業者の作業環境も改善します。

レベル別省エネ効果





TICON の持続的未來戦略

タウィーポン氏によると、2017年のタイ国内におけるグリーンビルディング市場は85億バーツで、今年は前年比14%増となる97億バーツになる見通しです。タイにおいてもグリーンビルディングの重要性が認識されてきており、これはTICONの開発方針が正しいことの証左と言えます。

TICONグループの今後の建屋開発については、2018年以降に開発するすべての新規プロジェクトでグリーンビルディングの基準を採用し、既存の工場および倉庫についても同基準に基づく改修を検討中です。

タウィーポン氏は最後に「TICONグループは現在、標準認証、シルバーレベル、ゴールドレベルの基準に基づいてグリーンビルディングを開発していますが、今後の目標はプラチナレベルを取得することです。さらには、TICONの持続的戦略に対応し、ソーラールーフを拡充することで太陽光発電の拡大を目指します」と語り、笑顔でインタビューを終えました。■

“Our next target is to the Platinum recognition. In addition, we are considering the solar rooftop project expansion to generate more solar power in alignment with the sustainability policy of TICON Group”

Dr. Taweeporn Pulket
Deputy General Manager of TICON Industrial Connection PLC.



Mr. Samart Russameerojwong

Head of Corporate Governance & Risk Management
TICON Industrial Connection Plc.



イニシャル・コイン・オフアリング

技術は日々、猛スピードで進歩し、私たちはその恩恵を受けて日々の生活で便利さを享受しています。特に通信機器の進化は世界を狭めています。新時代の変化はそれだけにとどまりません。

フィンテック(Fintech)事業ではICTを活用して金融や投資に関連するサービスの効率を向上させています。例えば、銀行の入出金業務や送金業務、株式データ分析などで、これらはオンラインでほぼすべてが完結します。

また、技術革新によって分散型台帳技術であるブロックチェーンが生まれました。このブロックチェーンはシステムの透明性と情報の信頼性により金融取引データの記録・検査・保管等に広く活用されています。金融取引データの正確性を検査する作業員に対しては毎回、報酬が支払われますが、これがデータの正確性を担保しています。この報酬が仮想通貨(デジタル・トークン)と呼ばれるものです。

仮想通貨の価値はその発行者によって定められますが、オンラインやオフラインの店舗で商品やサービスの購入が可能です。また、通常の紙幣とも交換でき、同一ネットワーク内において交換レートが決まります。

こうしてICO(イニシャル・コイン・オフアリング)と呼ばれるブロックチェーン技術を活用した資金調達手段が誕生しました。これは資金調達の希望者が仮想通貨を発行して投資家から資金を調達し、事業に投資するものです。現在、次の異なるトークンを通じた資金調達方法があります。



発行者自体が保証となるトークン

(Reputation Tokens)

このタイプのトークンは発行者のネットワーク内においてのみ使用できる仮想通貨を投資家に発行するもので、投資家は投資したものと同一のトークンを報酬として受け取ります。このため、トークンの価値は発行者の信頼性と投資家が発行者に対して持つ安心感に基づきます。



プラットフォーム内でサービスを利用するトークン (Utility Tokens)

このトークンの価値はトークン自体の利用価値にあり、投資家は発行者が許可する行為を行うためにトークンを使用することができます。投資家はトークンをカギのように使用して目的とする利益にアクセスする、というように使われます。例えば、KodakCoinは金銭の代わりにトークンを用いて投資家による写真の著作権購入を許可するもので、Kodakの商品・サービスプラットフォームで使用することが可能です。



特定の権利を有するトークン

(Asset Tokens)

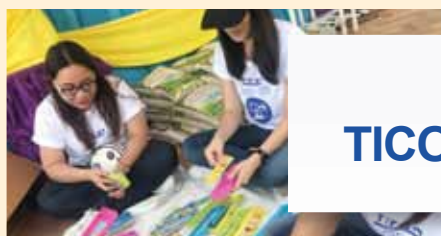
このトークンはUtility Tokenと似ていますが、実際に存在する資産や商品と同等のものであるという点が異なります。このため、トークンの価値はトークンの資産から生じる利益にアクセスする権利のみならず、資産自体の価値も含まれますので、他のトークンと比べて安定性があると言えます。■



第5回 「TICONから愛を」

TICONグループの経営陣とボランティア社員はこのほど、バーンゲーノーイ小学校(スリン県スリン郡)を訪問し、コンピュータ室や校庭の改修、コンピュータや毛布の贈呈を行いました。また、先生や児童とレクリエーション活動を行い、給食を共にしました。

今回の訪問は、「TICONから愛を」プロジェクトの下でTICONが5年連続で実施する社会貢献活動の一環で、教材や生活用品を遠隔地に届けることで笑顔や幸せを共有しようとするものです。■



Gallery of TICON Group gives Love



TICON、2017年度業績と3カ年事業計画を発表



(左から)
 タイ・ボン・ブーンゲート氏 (Deputy General Manager)
 ソムサック・チャイヤボン氏 (General Manager)
 ラットバン・ピリヤン氏 (CFO)
 ソーボン・ラーチャラクサー氏 (President)
 ウィラバン・ブーンゲート氏 (CEO)
 ビーラバット・シースコン氏 (Managing Director of
 TICON Management Co., Ltd.)
 ガモンカーン・コンカートン氏 (Head of Strategic
 Planning)
 サマート・ラミ-ロトウオン氏 (Head of Corporate
 Governance & Risk Management)

2018年3月6日(バンコク):TICON Industrial Connection PLCのウィラバン・ブーンゲートCEO(左から5人目)とソーボン・ラーチャラクサーPresident(左から4人目)は、アテネ・ホテル・バンコク4階のカンタワース・プレースでTICONの2017年度業

績および3カ年事業計画を発表しました。TICONは「Delivering Valuable Experiences」と命名した事業コンセプトの下で工業用不動産開発業界のASEANTOPを目指します。合わせて物流、eコマース、工業分野の市場動向を説明しました。■



TICONとSSIA、 インドネシアでユニリーバ倉庫を建設

TICONとインドネシア不動産開発大手のSSIAはインドネシア国内に資本金1,500万米ドルで新会社「PT SURYA INTER-NUSA TIMUR」(SIT)を設立し、SITはこのほど、顧客第1号とし



てユニリーバ・インドネシアからマカッサルとバンジャルマシンでの Built to Suit方式の倉庫開発を受注しました。■

NEW TENANTS

TICON

CELCO (Thailand) Co., Ltd.



CELCO (Thailand) Co., Ltd.は、大手電機メーカー向けに電子機器を製造・販売する日本企業です。同社はこのほど、製造を目的にピントン工業団地内のTICON工場(面積:1,450㎡)を賃借しました。

TS Coating (Thailand) Co., Ltd.



TS Coating (Thailand) Co., Ltd.は、塗装用製品を製造する日本企業です。同社はこのほど、製造を目的にハイテク工業団地内のTICON工場(面積:1,875㎡)を賃借しました。

TPARK

SC Homemart Co., Ltd.



SC Homemart Co., Ltd.は、建築資材を販売するタイ企業です。同社はこのほど、製品保管を目的にTPARKイースタンシーボード1(B)内の倉庫(面積:2,450㎡)を賃借しました。

Sumiso (Laem Chabang) Co., Ltd.



Sumiso International Logistics Ltd.は、国内・国際輸送、輸出入、配送等のサービスを提供する日本の物流会社です。同社はこのほど、事業拡張を目的にTPARKレムチャバン1内の倉庫(面積:5,058㎡)の賃借を決定しました。

ACETEC Technology Company Limitedはシステムインテグレーターとして、既存倉庫の改修や新規倉庫の建設を希望する会社に対して、倉庫の利用状況に応じて最適となるシステムの選定および設置を提案します。ACETECは国内外の特定ブランドのメーカーや販売業者と取引関係にないため、顧客の要望に応じた最適なシステムの提案が可能となっています。

ロボット倉庫導入で ビジネス拡大 (Part 1)

労働力が不足し、賃金や地価の上昇が続くなか、ロボット倉庫が新たな選択肢となってきています。多くの業種では資源を有効活用する管理・マネジメントシステムにより原材料から完成品に至るすべての商品を保管する完全自動または半自動の倉庫の必要性が認識されているのです。



間稼働が可能となり、倉庫マネジメントを容易にしています。

効率のよい倉庫は原料搬入、製造、保管、商品配給、在庫管理等のマネジメントにもよい影響を与えます。在庫を抱える事業は必要時に商品を供給できないという問題に悩まされがちです。またあるときはデッドストック問題に直面し、新たに商品を仕入れる必要に迫られて不要なコスト増となります。

倉庫サービス事業者は常に顧客サービスを改善していく必要があります。賃金がまだそれほど高くないとの理由により最新の倉庫システムを導入しない事業者もありますが、賃金を始めとするコストは上昇傾向にあり、倉庫で働く作業員の雇用も困難になってきているのが現状です。

最近の大卒者は重い荷物を持ち上げなければならないとの理由から倉庫での勤務を避ける傾向にあります。ロボット技術の進歩により正確かつ安全、無電源での24時



ACETEC Technology Company Limited (503, Rama 2 Rd., Bangkok) は、スマート・ウェアハウスに関する技術選定、コンサルティング、マネジメントシステム設計を得意とし、倉庫ごとに最適となるシステムや設計に関して知識と経験を有するスタッフが対応します。

自動倉庫AS/RS (Automated Storage & Retrieval System)



Mr. Michael Chung

自動倉庫は商品の効率的な搬入・搬出ができ、商品の損傷を減らし、人材の効率的な活用を可能にするもので、イノベーションによる倉庫革命と言えます。

ACETEC Technology Company Limitedのオーナー、マイケル・チョン氏は飲料大手のイチタンへの自動倉庫導入を手がけました。同倉庫では従来、作業員80人とフォークリフト50台が必要でしたが、現在は5人で6万パレットを処理しています。

(To be continued)



フォード 1億パーツ投資

TPARKバンプリに部品配送センターを新設

FORD MOTOR COMPANYはこのほど、バンナ・トラート通りKM.18(上り線)のTPARKバンプリ4に新部品配送センター(PDC)を正式オープンしました。1億パーツ(約300万米ドル)を投じて建設された同PDCはタイ全土のフォード顧客に対する最適なサービスの提供に加え、拡大する事業と顧客基盤に対応していきます。

フォードは、PANDA(Part AND Accessory)倉庫マネジメントシステム(WMS)等の同社が特許を持つ最新技術を新PDCに導入しました。これにより、同PDCはフォー

ドがアジア太平洋地域に展開する9マーケット向けの部品供給網にアクセスが可能となり、顧客に対する部品サービスが向上することになります。



「最新技術を導入したフォードの新部品配送センター(バンナ・トラート通り)はフォード顧客に対する最適なアフターサービスの提供と輸出に対応していきます」



TPARK Bangplee 4

新PDCは敷地を有効利用するため長方形の最新デザインを採用し、広さ26,000㎡の倉庫に38,000種類、200万点以上の部品を保管することができます。また、将来の事業拡大に向けて79,000㎡まで拡張が可能となっています。



新PDCは、フォードのショールーム・サービスセンターへの迅速な部品供給を可能にし、ディーラー網と顧客基盤の拡大に対応します。■



Ford Motor Company

Ford Motor Companyは米ミシガン州ディアボーンに本社を置く大手自動車メーカーです。同社はフォード・ブランドの乗用車、ピックアップトラック、SUV、EV、リンカーン・ブランドの高級車を設計、製造、販売し、Ford Motor Credit Companyを通じて金融サービスを提供。EV、自動運転車、スマートモビリティのリーディングカンパニーを目指しています。同社の従業員は世界中で約202,000人。Ford Motor、Ford Motor Credit、フォード車に関する詳細情報はwww.corporate.ford.comにアクセスして下さい。



今回のPROPERTY HIGHLIGHTでは米国グリーンビルディング協会(USGBC)の環境性能評価システムであるLEED(LEADERSHIP IN ENERGY AND ENVIRONMENTAL DESIGN)の認証を取得したTICONグループのレンタル工場とレンタル倉庫をご紹介します。

TICONアジア工業団地スワンナプーム

今回はアマタシティ工業団地にある国際基準のレンタル工場をご紹介します。同プロジェクトはタイ東部における自動車産業集積地となっているラヨーン県の国道331号沿いに位置しているため、自動車メーカー、自動車部品メーカー、サポーティングインダストリーの事業者に適しています。また、周辺にはピントン工業団地、ヘマラート・チョンブリ工業団地、ヘマラート・イースタンシーボード業団地等の主要工業団地が隣接しているため、業務の利便性や迅速性、コスト低減に貢献します。関心のある方は工場見学に立ち寄ってください。



Available Buildings

所在地: アジア工業団地スワンナプーム

工場面積: 550 – 4,200㎡
床耐荷重: 3t/㎡
天井高さ: 7m



詳細問合せ、工場見学のご連絡は下記まで。

Tel: +66 (0) 2679 6565

Email: marketing@ticon.co.th または info@ticon.co.th (日本語)

利用可能な物件はここ
でチェック!



TPARKワンノイ2

TPARKワンノイ2は商品配送の立地を重視する事業者に適した、最高の品質と基準を備えた倉庫であるのに加えて、環境や近隣の地域にも配慮したグリーンビルディングです。当プロジェクトはLEED認証のシルバーレベルを取得しており、省エネ、節水が可能であるうえ、建屋内の作業者に優しい環境を提供します。場所は国道1号線(パホンヨティン通り)沿いの東部環状道路から200メートルの位置し、バンコク首都圏、北部、東北部向けの商品配送に適した立地となっています。周辺には日用品等の主要配送センターが数カ所あり、プロジェクト内でのフリーゾーンサービスの提供やBOIの恩典も付与されます。



詳細問い合わせ、倉庫見学のご連絡は下記まで。

Tel: +66 (0) 805 805 005

Email: logistics@ticon.co.th

利用可能な物件はここ
でチェック!



Available Buildings

所在地: TPARKワンノイ2

工場面積: 2,450 – 20,000㎡
床耐荷重: 3t/㎡
天井高さ: 7m

Take a Break



特典
Forwardの読者は
食事代金が
10%
割引となります。



Krua Sator Restaurant Sriracha

今回のTake a Breakではタイ南部料理を提供するレストランをご紹介します。TPARKレムチャバン2に近いシラチャにありますので、わざわざ南部に行く必要はありません。モーターウェイ第7号線の側道をレムチャバンからシラチャ方面

に走ったシラチャ交差点の手前にあり、大きな店の看板が見えますのですぐわかります。駐車場も広く、駐車に困ることもありません。

店内は広々として落ち着いた雰囲気、座席数も多いため気

に入った場所に座ることができ、着席するとすぐにウェイトーがおすすめ料理を紹介しにきます。そして、私たちは料理をほんの数種類だけ注文しました。それは「ゲーン・タイ・ブラー」、「ゲーン・ソム・ブラー」、「ゲーン・ムー・ルー・クリアン」、「カオ・ヤム」、「クア・クリン・ムー」、「バイ・リアン・パット・カイ」、「ブラー・クラボン・トート・ナムブラー」、「パック・リアン・トムカティ・クンソット」、「パット・サトー・クンソット」、「ヤム・タクライ・クンソット」……。

なかでも「ゲーン・ソム・ブラー・クラボン」は口いっぱいになるほど一口が大きく、味もおいしいこと請け合いです。家族や友人とのパーティにも対応し、カラオケルームもあります。夜は歌手とバンドによる生演奏を楽しめます。次回、TPARKレムチャバン2にお越しの際は是非ともKrua Sator Srirachaにお立ち寄りください。■

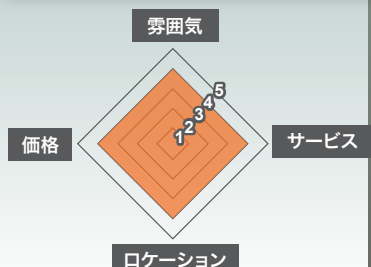
Krua Sator Sriracha

営業時間：11時～23時59分
(無休)

所在地：TPARKレムチャバン2
近く

住所：152/171 Moo 7,
T.Surasak, A.Sriracha
(Laemchabang),
Chonburi 20110

電話：095-896-5225、
091-789-8514



LEADING PROVIDER OF QUALITY FACTORIES IN INDUSTRIAL ESTATES IN THAILAND



18

PROJECTS ACROSS
THE COUNTRY

**READY BUILT
FACTORIES FOR RENT**



Contact us:
Tel: +66 (0) 2679 6565
Email: marketing@ticon.co.th
info@ticon.co.th (japanese)
www.ticon.co.th

TICON Industrial Connection Public Company Limited
13th Floor, Sathorn City Tower, 175 South Sathorn Road,
Bangkok, 10120 Thailand